



第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 ランチオンセミナー9

日時 2023年7月15日(土) 12:00~13:00

会場 第3会場(くにびきメッセ 1F 多目的ホール)
〒690-0826 島根県松江市学園南1-2-1

卵巣がんにおける 新規腫瘍マーカーTFPI2の 有用性について ～実臨床への応用～

座長

平嶋 泰之 先生

静岡県立静岡がんセンター 婦人科

演者

川口 龍二 先生

奈良県立医科大学 産科婦人科学講座

- 当セミナーの参加には学術講演会への参加登録が必要です。
- 詳細は学会ホームページをご確認ください。
<https://jsgo.or.jp/65/>
- ライブ配信も行います。

共催

第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会



東ソー株式会社

TOSOH

卵巣がんにおける 新規腫瘍マーカーTFPI2の 有用性について ～実臨床への応用～

座長：平嶋 泰之 先生（静岡県立静岡がんセンター 婦人科）

演者：川口 龍二 先生（奈良県立医科大学 産科婦人科学講座）

本邦において、卵巣がんは毎年約13,000人が罹患している。自覚症状が乏しく発見時には進行している場合も多く、約4,700人が毎年亡くなっているとされている。卵巣がんには主に4つの組織型（漿液性癌、明細胞癌、類内膜癌、粘液性癌）が存在し、本邦での明細胞癌の発生頻度は約24%と欧米に比べて高頻度である。卵巣明細胞癌は子宮内膜症が発症の母地となることがあり、化学療法に抵抗性で、CA125をはじめとする他の腫瘍マーカーでは上昇しにくいなどの特徴を有する。

今回紹介する組織因子経路インヒビター2（TFPI2）は、とりわけ明細胞癌に良く反応すること、また、CA125とは相関を認めず、子宮内膜症を含む良性疾患ではほとんど上昇しないなどの特徴を有する腫瘍マーカーである。本セミナーでは、TFPI2の特徴と卵巣がん患者のフォローアップを含めた有用性について使用経験を含めて紹介する。